

◇2月の代祷・信施奉献先

▽東京教区神学生のため(21日)▽聖公会生野センターのため(28日)▽「佐賀聖ルカ教会」伝道所の働きのため▽全生園聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂のため

◇常置委員会報告(2月16日)

zoomによるWeb会議

冒頭、奥山尚財政委員長より、2020年度決算報告書、2021年度4月人事による変更分担金について説明があり、内容を確認の上、それぞれ受理した。

主教報告

・主教会が2月8日(月)10日(水)前橋聖マツテア教会にて開催された。また会期中には、リーかあさま記念館・草津重監房資料館にて人権研修が行われた。
・宣教協議会は2022年11月4日(金)7日(月)清里清泉寮にて開催される予定

・日本聖公会新任人権研修会が5月27日(木)28日(金)横浜山手聖公会にて行われる。中村真希、藤田誠、藤田美土里の3聖職候補生が対象者として参加予定

・日本聖公会第66(臨時)総会が3月6日(土)に開催される。主な議題は「北関東教区伝道教区承認」と、宣教協働区設置に伴う「法規改正」に関して。

総主事報告

・第138(定期)教区会、2021年3月・4月人事異動に関する公示を發布した。
・第138(定期)教区会書記任命書(下条知加子執事、菅原裕治司祭、荻原充聖職候補生、藤田誠聖職候補生)、出張命令書(笹森田鶴司祭2月18日3月7日小笠原出張)、解任書(聖職試験委員長、小平墓地委員長・井口論司祭)、任命書(小平墓地委員長・倉澤一太郎司祭、聖職

試験委員長・菅原裕治司祭)を發行
・信徒奉事者推薦書・現在、約70名分受信、集計中
・聖バルナバ教会との協議が1月19日、2月23日に行われる。「合併」に向け準備中
危機対応・総務デスク報告
・都へ提出の諸書類、法人規則による諸書類を準備・整備中
・公告について、インマヌエル新生教会の建物取り壊しに関する公告は2020年7月1日から、池袋聖公会伝道所の土地建物に関する公告は2020年10月27日より、それぞれ13日間、教区事務所に掲示板に掲示する形で行ったとの報告があった。どちらも公告確認書の署名は未了。また主教会議長の承認については手続き中とのこと。またインマヌエル新生教会の建物取り壊しに関する滅失登記は完了した。

宣教主事報告

・136(定期)及び137(定期)教区会の議事録の整備、決議録の印刷、送付について。
・138(定期)教区会の準備進捗について。
財務主事報告
・2020年度の教区会計監査を2月12日に実施した。

宣教主事報告

・各委員会の開催状況及び協議内容についての報告
・「み言葉と歩む大齋節」発行、協力感謝
・主教直轄の「教育にかかわることの検討チーム」の設置

検討

今週・来週の予定
2月21日~3月6日

- 21(日) 大齋節第1主日
モニカ会
- 22(月) 信仰と生活委員会 (Web)
- 25(木) 人権委員会 (Web)
- 28(日) 大齋節第2主日

・教区お知らせ LINE を開設
主 教 座 聖 堂 主 任 司 祭 報 告

・主 教 座 聖 堂 理 事 会 を 1 月 15 日 に 開 催 し た。

・主 教 座 聖 堂 活 動 委 員 会 を 2 月 22 日 に 開 催 予 定

・聖 職 按 手 式 に つ い て は、公 禱 休 止 が 解 か れ る ま で は 延 期

常 置 委 員 長 報 告

・東 日 本 宣 教 協 働 区 第 1 回 協 働 委 員 会 (2 月 1 日 開 催) に 参 加 し た。

・区 内 の 協 働 を 推 進 す る に あ た り、人 材 と 財 政、そ れ ぞ れ の 教 区 が 持 っ て い る 資 源 か ら 検 討 し て い く こ と と し、ま ず は、北 海 道 と 東 北、北 関 東 と 東 京 の 2 分 科 会 で の 協 議 検 討 を 進 め る こ と に。懸 念 と し て は、各 教 区 の 主 体 性 と 宣 教 協 働 区 と の 関 係、各 教 区 の 文 化 や 歴 史 な ど を ど の よ う に 共 有 し 具 現 化 で き る の か、各 教 区 内 の 意 識 づ け や 信 徒 へ の 周 知 と い う こ と が あ げ ら れ て い る。

参 考 : 協 働 委 員 会 の 役 割 に つ い て (日 本 聖 公 会 第 65 (定 期) 総 会 決 議 よ り 抜 粋)

「宣 教 協 働 区 に 協 働 委 員 会 を 設 け、区 内 の 運 営、宣 教・牧 会 な ど に つ い て 協 働 を 推 進 し、ま た 教 区 再 編 に つ い て 検 討 す る。」

「宣 教 協 働 区 内 の 教 区 が 伝 道 教 区 に な っ た 場 合、協 働 委 員 会 は 伝 道 教 区 の 運 営、宣 教・牧 会 な ど に つ い て 宣 教 協 働 区 内 の 協 働 を 推 進 す る。」

協 働 委 員 会 は、5 年 を 期 限 と し て 教 区 再 編 あ る い は 教 区 新 設 す る こ と を 検 討 す る。」

協 議 事 項

・「預 かり 金」と な っ て い る 遺 贈 献 金 の 処 理 に つ い て。

・「長 期 未 収 金」の 処 理 に つ い て。

・今 後 の 遺 贈 献 金 の 取 り 扱 い に つ い て ガ イ ド ラ イ ン を 策 定 す る こ と を 確 認

・ハ ラ ス メ ン ト 防 止 委 員 会 パ ン フ レ ッ ト に 記 載 さ れ る フ

ロー チャート に つ い て。ま た 相 談 員 と の 契 約 内 容 の 一 部 変 更 及 び 現 在 の 相 談 員 と の 契 約 更 改 に つ い て 了 承

・福 永 澄 聖 職 候 補 生 志 願 者 に 関 す る 聖 職 候 補 生 認 可 申 請 書 等 を 受 領 し た。次 回 面 接 を 行 う。

◆ と こ し え の 平 安

2 月 5 日 内 田 登 喜 子 (89)
聖 テ モ テ
2 月 15 日 山 口 富 美 恵 (98)
真 光

【新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 患 者 の た め ・ 医 療 看 護 に 携 わ っ て い る 方 々 の た め】

世 の 救 い 主 よ、主 は 十 字 架 の 苦 し み に よ っ て わ た し た ち を 贖 わ れ ま し た。ど う か、わ た し た ち、こ と に こ の 度 の 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 の 苦 し み、不 安 の 内 に あ る 人 々 を 救 い、癒 し の み 手 を 差 し 伸 べ

て ぐ だ さ い。ま た、医 療 と 看 護 に 携 わ る 人 び と の 働 き を 助 け 導 き、み 力 を も っ て そ の 人 び と を 守 り、励 ま し て ぐ だ さ い。主 イ エ ス ・ キ リ ス ト に よ っ て お 願 い い た し ま す

ア ー メ ン

【新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 に よ っ て 亡 く な ら れ た 方 々 の た め】

永 遠 に い ま す 全 能 の 神 よ、新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 に よ っ て 尊 い 命 を 失 っ た 方 々 の 魂 を す べ て の 重 荷 か ら 解 放 し、主 の 聖 徒 と と も に 永 遠 の み 国 で 安 ら か に 憩 わ せ て ぐ だ さ い。ま た、悲 し み の 中 に あ る 方 々 に 主 の 慰 め が 与 え ら れ ま す よ う に、命 の 贖 い 主 で あ る 主 イ エ ス ・ キ リ ス ト に よ っ て お 願 い い た し ま す

ア ー メ ン

【教 区 事 務 所 開 所 時 間 に つ い て】

開 所 日 : 月 曜 ・ 水 曜 ・ 金 曜 (休 日 を 除 く)

開 所 時 間 : 午 前 10 時 半 ~ 12 時 半 午 後 13 時 半 ~ 15 時 半

皆 さ ま の ご 理 解 と ご 協 力 を よ ろ し く お 願 い い た し ま す。

東 京 教 区 事 務 所

【開 設】

教 区 お 知 ら せ LINE

東 京 教 区 か ら の お 知 ら せ を タイ ム リ ー に お 届 け し ま す。

左 の QR コー ド よ り ご 登 録 く だ さ い。 ※ 受 信 の み で 返 信 は で き ま せ ン。



【主教教書】20

大齋節を迎えて

2021年2月18日

東京教区主教

フランシスコ・ザビエル

高橋 宏幸

12月27日（降誕後第一主日）

以降、殊に東京都のコロナウイルス感染症の更なる深刻化を鑑み、当初からの二本柱である「いのちを守り合うこと」「教会の社会的責任を果たすこと」を重んじ、東京教区における礼拝・公禱（会衆参加の礼拝・公禱）の休止をしております。緊急事態宣言下でもありますが、既にお知らせしましたように、東京都の医療提供体制警戒レベルが「3」になるなどを目安に、礼拝・公禱（会衆参加の礼拝・公禱）の再開の時期を改めてご連絡したいと考えております。

その中、「大齋節」が始まりました。依然として、多くの

制限や制約が求められていますが、大齋節の大事なテーマである「信仰の原点への立ち返り」という意味からも、その過ごし方には重要なものがあります。

イエス様は荒れ野に行かれ、四十日間を過ごされたことが福音書に記されていますが、それは「神様の霊によって」のこと、神様に従われたゆえのことでした。そこでイエス様は、黙想と祈りの中で徹底して神様と向き合い、語り、聴かれ、問われたはずですが、悪魔の誘惑を打ち破られただけではなく、神様の思いを自分の思いとされるといふ決断、決心をされました。

今、世界中は、「荒れ野」の中にいる状況とも言えます。社会には今のコロナ禍の状況を指して「神の審きである」「神は見捨てた」等々の声も決して皆無ではありません。しかし、イエス様に於いて荒れ野は、決して神様から見放され、見捨てられた場所でも、神様の手の及ばない場所でもありませんでした。

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

状況を見て「神の審きである」「神は見捨てた」等々の声も決して皆無ではありません。しかし、イエス様に於いて荒れ野は、決して神様から見放され、見捨てられた場所でも、神様の手の及ばない場所でもありませんでした。

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

今、私たちは荒れ野の中のような状況にありますが、大齋節には徹底して神様と向き合い、神様に聴く、そして、神様の御心と働きが一層為される場所としての自覚が求められていると言えます。私たちですが、その中でどう生活するかが、例年以上に問われているはずで、キリストの教会である一人一人には、荒れ野の中から語らねばならないこと、荒れ野の中でだからこそ深められなければならない信仰生活のあり方が与えられているはずで、

くことが神様から与えられているということを、危機の中にあればこそ改めて思い起こしたいと思えます。制限、制約、我慢を強いられている中で失うものばかりではなく、荒れ野のイエス様に思いを寄せることを通して、改めて得るもの、気付かされるものも多くあるはずで、今こそ私たちは、一層互いに励まし支え合う、祈り合う、そのような生き方を求められているのではないのでしょうか？

イエス様の荒れ野での祈りと黙想、ご受難ご復活に向かつて私たちはイエス様と、そして、イエス様も私たちと歩んでおられるからこそ、いつ如くなる時にも喜びを見出し、喜びを分かち合っていきたいと思います。それがどれ程細やか

イエス様の荒れ野での祈りと黙想、ご受難ご復活に向かつて私たちはイエス様と、そして、イエス様も私たちと歩んでおられるからこそ、いつ如くなる時にも喜びを見出し、喜びを分かち合っていきたいと思います。それがどれ程細やか

イエス様の荒れ野での祈りと黙想、ご受難ご復活に向かつて私たちはイエス様と、そして、イエス様も私たちと歩んでおられるからこそ、いつ如くなる時にも喜びを見出し、喜びを分かち合っていきたいと思います。それがどれ程細やか

イエス様の荒れ野での祈りと黙想、ご受難ご復活に向かつて私たちはイエス様と、そして、イエス様も私たちと歩んでおられるからこそ、いつ如くなる時にも喜びを見出し、喜びを分かち合っていきたいと思います。それがどれ程細やか

えますよう祈ります。それは、神様の喜び、イエス様の喜びとなり、イエス様を独り荒れ野に置き去りにしないことに

私たちは異なった場所で献げる祈りも、それは教会共同体の祈りとなり、連帯を形作り、主イエス・キリストと父なる神様との交わりに重ね合わせ、聖なる献げものとされます。そこで、引き続き、主日正午、お昼時の忙しい時間ですが一旦手を止め、心と言葉を合わせて、主イエス・キリストが授けてくださった「主の祈り」をそれぞれが居られる場所で、捧げ合いたいと思

私たちは異なった場所で献げる祈りも、それは教会共同体の祈りとなり、連帯を形作り、主イエス・キリストと父なる神様との交わりに重ね合わせ、聖なる献げものとされます。そこで、引き続き、主日正午、お昼時の忙しい時間ですが一旦手を止め、心と言葉を合わせて、主イエス・キリストが授けてくださった「主の祈り」をそれぞれが居られる場所で、捧げ合いたいと思

私たちは異なった場所で献げる祈りも、それは教会共同体の祈りとなり、連帯を形作り、主イエス・キリストと父なる神様との交わりに重ね合わせ、聖なる献げものとされます。そこで、引き続き、主日正午、お昼時の忙しい時間ですが一旦手を止め、心と言葉を合わせて、主イエス・キリストが授けてくださった「主の祈り」をそれぞれが居られる場所で、捧げ合いたいと思

私たちは異なった場所で献げる祈りも、それは教会共同体の祈りとなり、連帯を形作り、主イエス・キリストと父なる神様との交わりに重ね合わせ、聖なる献げものとされます。そこで、引き続き、主日正午、お昼時の忙しい時間ですが一旦手を止め、心と言葉を合わせて、主イエス・キリストが授けてくださった「主の祈り」をそれぞれが居られる場所で、捧げ合いたいと思

多大な負担を余儀なくされて
「み言葉と歩む大齋節」を黙
想の手引として活用戴き、ま
れる。神は来て、あなたたち
を救われる。」
(イザヤ書第35章1〜4節)

いる方がたが優先され、最善
の措置が図られることも祈り
た、そこに付されております
推薦図書、映画等もご覧戴く
などして、大齋節の霊の糧に
して戴ければ幸いです。

罹患された方がたの回復、医
療現場に於いて命がけで献
束を祈り合いたく切望しつ
つ、皆さまお一人お一人の、
そして世界の平和をお祈り致
します。

会福祉施設、高齢者施設、幼
稚園、保育園等のお働きと、

そこで献身していらっしゃる
方がたのお働き、生活上の
不安、困難を余儀なくされて
いる方がたへの支え、ご逝去
された方がたの魂の平安と悲
しみの内にある方がたへの慰
め、そしてこの危機の収束を
切にお祈り致しましょう。

また、罹患された方がたへの
偏見や差別に陥らぬよう併せ
て祈ります。

この度、全教役者の手による
見よ、あなたたちの神を。敵

「雄々しくあれ、恐れるな。
心おののく人々に言え。
弱った手に力を込めよ。弱った手
を強くせよ。心を強くせよ。」